

縁日と屋台で笑顔いっぱい
みんなで楽しんだ本岐秋まつり

9月12日、本岐神社と本岐農業研修センターで秋祭り（本岐連合自治会主催）が行われ、7自治会（本岐市街、本岐第2、双葉、沼沢、木樋、二又、大昭）の皆さんは縁日と屋台で楽しい秋の1日を過ごしました。

神社周辺では子どもみこしや子ども相撲が行われ、夜には研修センター内の縁日会場で射的やスマートボール、輪投げなど子どもたちはお祭り気分を体験しました。
また、屋外にはとてもおいしいと好評な焼き鳥やつくね、豚汁コーナーが用意され大盛況でした。
その後、カラオケやビンゴゲーム、豪華景品が当たる大抽選会が行われ、賞品を獲得する度に会場からは歓声が上がっていました。



1番人気のスマートボールは子どもたちでいっぱい



ボーガルーレットで賞品を獲得！

鹿の子沢の大自然を満喫！
ふれあい歩こう会に26人が参加！



9月2日、第2回ふれあい歩こう会に26人が参加して行われました。

参加者は、鹿の子沢（鹿の子ダムの下流）の駐車場から虹の滝や名木100選にも選ばれた三本柱の名勝を散策しながら糸ひき滝を目指しました。途中、急こう配な道もありましたが、参加者全員が鹿の子沢の大自然を満喫することができました。

この日は天候にも恵まれ、心地よい汗を流した後は、温泉ゆづゆで昼食や入浴で疲れをいやしました。参加者は「三本柱は素晴らしいかったです。次回もぜひ参加したいです」と話してくれました。

townics

まちのわだい

北海道経済の展望を学ぶ
職員研修公開講座開催

9月7日、林業研修会館で、「北海道経済を展望して～北海道経済の光と影～」をテーマにした公開講座が行われ、商工関係者や役員職員など約50人が参加しました。

講師に津別町出身で北海道経済産業局総務企画部長の樋口恭司氏を迎え、北海道経済の発展は、「国際競争力ある産業の育成」と、「活力ある地域づくり支援」と、「社会の安全・安心の確保」が重要であると話してくれました。会場を訪れた参加者は、北海道経済の現状と課題という身近な問題を真剣な表情で聞き入っていました。



樋口恭司氏の話熱心に聞き入っていました

8月29日、町長室で知事からフラワーマスターの認定を受けた山内彬さん（豊永）と高橋トミ子さん（幸町）に佐藤多一町長から認定証の伝達が行われました。
フラワーマスター制度は、園芸の地域ボランティアリーダーとして植花事業の指導、助言ができる方です。認定を受けた山内さんは「まだ経験が浅いので積んで若い人にも参加してもらえよう仲間づくりをしていきたいです」。高橋さんも「一生懸命勉強し、先輩たちと力を合わせ頑張っていきたいです」と抱負を話してくれました。



山内彬さんと高橋トミ子さんへフラワーマスター認定証を伝達



ギターとフルートの音色を楽しむ道の駅あいおいでコンサート

8月26日、旧北見相生駅のホームで「あいおい道の駅コンサート・エフエム2007」が1年振りに開催され、道の駅周辺には、ギターやフルートの音色が流れていました。
この日の演奏者、丸尾美佐さん（役場保健師）がフルートでアンコール曲を含む6曲を演奏。佐藤芳弘さん（電器店経営）はアコースティックギターで全7曲を披露。最後に石橋吉伸さん（役場職員）がアコースティックギターを弾きながら「西国33力所」を歌いました。
この日は天候にも恵まれ、会場に訪れた30人の方は芝生に座り1時間のコンサートを楽しんでいました。

津別町防犯協会と美幌歯科医師団
永年の活動を讃え教育委員会顕彰

8月30日、教育委員会会議の席上で津別町防犯協会と美幌歯科医師団における永年の活動を讃え、布瀬勝明教育委員長から顕彰を受けました。

津別町防犯協会は平成13年から小学校入学児童に登下校の安全を守るため防犯ベルの寄贈を7年間続けている功績が認められました。水上博会長は「児童生徒の安全は地域で活動していくのが大切です。今後も寄贈活動を続けます」と話してくれました。
美幌歯科医師団は昭和59年間に23年間、全小学生を対象に歯ブラシの寄贈を続けている功績が認められました。津別代表の白木雅之さんは「寄贈する歯ブラシが減少して寂しいですが、今後も活動を続けていきたいです」と話してくれました。



教育委員会顕彰を受賞した津別町防犯協会長水上博さんと美幌歯科医師団津別代表白木雅之さん

みなさんいつまでもお元気で
お寿司をみんなにプレゼント



9月14日、グループホームふれやかほのぼので入居者の皆さんはボランティア活動に訪れた丹和代さん（丹食品店）が握るお寿司を味わいながら少し早い敬老の日を過ごしました。
この日は帆立やうに、いくらなど10種類の寿司ねたが用意され、丹さんが手際よく握っていくお寿司を「おいしい、おいしい」と笑顔いっぱい食べていました。
丹さんは「入居者のみなさんに喜んでもらえてとてもうれしいです。たくさん握るのでどんどん食べてください」と話してくれました。

9月15日、チミケップ湖で自然文化教室が開催され、4年生から6年生の子どもたち12人が、カヌー体験を楽しみました。
この日は小雨が降るあいにくの天気でしたが、ライフジャケットをまとった子どもたちは、5人の指導者からカヌーの乗り方やパドルの漕ぎ方などを教わり、少し緊張した表情でカヌーに挑戦しました。

最初は、慣れない手続きで一生懸命漕いでいた子どもたちもカヌーのコツがわかったのかスイスイと漕いでいく姿はとても楽しそうでした。



自然文化教室に12人が参加
チミケップ湖でカヌーに挑戦